

2025年4月27日（日）

日本基督教団 大宮教会
大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書28:19-20)

復活節第2主日

朝第1礼拝 9:00～10:00
朝第2礼拝 10:30～11:45
＜神の招き＞
前 奏 過ぎ越しの生贄をたたえよ シャイデマン
招きの詞 ヨハネによる福音書11:25～26
交読詩編 16:5-11
讃美歌 51
＜神の言葉＞
聖 書 民数記6:22～27
(旧約 聖書協会共同訳 207頁)
エフェソの信徒への手紙1:1～2
(新約 聖書協会共同訳 345頁)
祈 禱
讃美歌 419
説 教 「恵みと平和」 佐藤潤伝道師
祈 禱
黙 想
讃美歌 390

＜神への応答＞

使徒信条
献 金
主の祈り

宣教報告②

頌 栄 28

黙 禱

後 奏

今日神の子は凱旋したまえり
パッサ

宣教報告①

今週の御言葉(エフェソ

1:2) 私たちの父なる
神と主イエス・キリスト
から、恵みと平和があなた
がたにありますように。

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30～11:30
夕 礼 拝 18:00～19:00
＜神の招き＞
前 奏 ☒ イエス・キリスト、われらの救い主 パッサ
☒ キリストは死んで葬られた パッサ
招きの詞 ヨハネによる福音書11:25～26
交読詩編 16:5-11
讃美歌 13
＜神の言葉＞
聖 書 詩編16:5-11
(旧約 聖書協会共同訳 830頁)
マタイによる福音書28:11-20
(新約 聖書協会共同訳 58頁)
祈 禱
讃美歌 56
説 教 「復活の主に遣わされて」
祈 禱 熊江秀一牧師
黙 想
讃美歌 323

＜神への応答＞

使徒信条

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 28

派遣と祝福

後 奏

☒ キリストは死の縄目につき給いしが パッヘルベル

☒ キリストは死の縄目につき給いしが パッヘルベル

ワースhip (賛美礼拝) 14:00～15:00

説教「同行の旅人」熊江秀一牧師

ルカによる福音書24:30～35

賛美：主はわれらの太陽、いのちの光、

詩篇117、主の手にわが手を重ね他

次週の礼拝（5月4日）聖餐式

① 9:00、② 10:30
説教「ダビデ王を超える方」熊江秀一牧師
詩編110:1～7、
マルコによる福音書12:35～37
交読詩編116:1～14
讃美歌1、50(奉唱I-242)、358、81、27

☒ 18:00
説教「喜ばしい知らせ」佐藤潤伝道師
マラキ書3:23～24、
ルカによる福音書1:5～25
[司式]熊江秀一牧師
交読詩編116:1～14
讃美歌6、464、475、81、27

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☒は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 5月の宣教の為に
4. 大宮幼稚園創立100周年に感謝して
5. 5月の宣教の為に
6. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
7. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 新島学園短期大学 新島学園中学・高等学校 聖学院大学・キリスト教センター

◇先週の説教より 「キリストの復活」 マタイによる福音書28：1～10、詩編66：1～9 熊江秀一牧師

キリストの復活は死に対する勝利の出来事である。死を越えた新しい命の始まりである。

週の初めの日の明け方、二人のマリアが主の墓に向かった。愛する主イエスを十字架で失った二人は深い悲しみの中にあった。

この姿は、悩みや悲しみを持ちつつ、主を求めて生きている私たちの姿と重なる。

ここで大切なのは、二人が悩みを持ったまま主のところに向かったことである。そこから全てが始まった。この二人が最初に復活の主と出会い、復活の主の証人となった。

二人は主の天使から御言葉を受ける。主が予告していたその言葉を二人は悲しみの中で失っていた。しかし主は天使を通して再び与えた。

二人はまだ復活の主に出会ってはいない。しかし御言葉によって主の復活を告げ知らされた二人は「恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り」主の復活を弟子たちに知らせるために走って行った。

するとこの二人の前に復活の主イエスがお立ちになって声をかけた。復活の主はここで特別なことを語りかけてはいない。「おはよう」と朝の挨拶をした

のみである。復活の主との出会いとは特別なことではない。主は私たちの日常のただ中で出会って下さる。

さらに「おはよう」は「平安あれ」（口語訳）「喜びなさい」（原意）という意味がある。復活の主は自ら出会って下さり、平安と喜びと祝福の挨拶をして下さる。

そして二人は弟子のもとに遣わされ主の復活を告げる。同じように復活の主と出会った私たちも遣わされ、復活の主の恵みを証しする者となる。

主の復活の恵みに生きるとは、この希望に生きることである。「来て、神の業を見よ。人の子になされた恐るべき業を」。

このイースターから始まる新しい歩みに、復活の主イエスの恵みと祝福があるように。